



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2013年3月期 決算 説明資料

2013年5月30日

<目次>

- **事業概要**
- **決算概要**
- **今期業績見通し(2014年3月期)**
- **注力分野の状況**
(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

事業概要

QCD & Iをスローガンとするお客様中心ビジネス

「New Element to New System」

New Element による New System で不可能を可能に、
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる






業績のベースを確保する

業績を向上させる



40年の実績のあるリアルタイムソフトウェアビジネス(フロー)と
リアルタイムソリューションビジネス(ストック)の両輪で、ビジネスを拡大する

セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジー	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		オープンプラットフォーム技術 携帯電話端末搭載ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワーク	RealtimePowerシリーズ     
ワイヤレス	スマートフォン タブレット	地上デジタル放送技術		
インターネット	非接触型IC 情報家電 車載端末	ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム		位置情報サービス技術	防衛、放送 交通(ITS, 航空) 環境エネルギー	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	ロボットソフトウェア共通化技術	人工衛星 天文	

決算概要

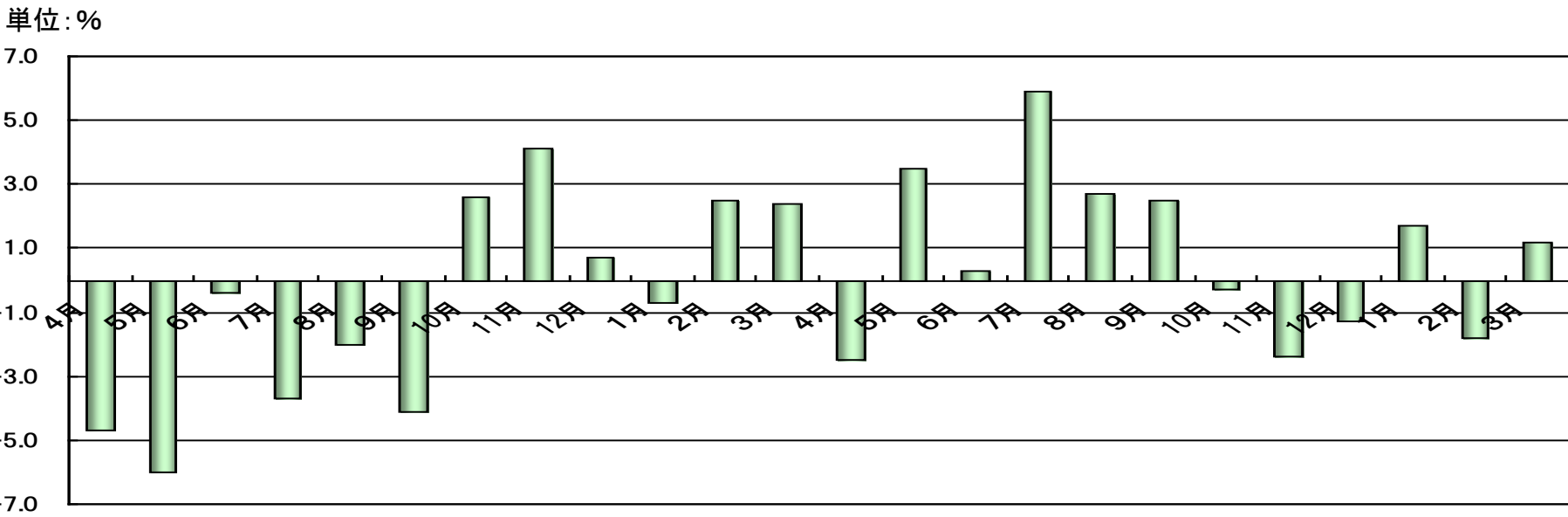
(2013年3月期)

事業環境

2013年3月期事業環境

2012年4月から2013年3月までの月別売上高は、増減を繰り返しているが、IT需要は全体的に回復傾向にある。

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



■ 業界全般

成熟期を迎えているかのように見える市場、クラウドコンピューティングの活用で「持つから使う」への流れ
→労働集約型から知識集約型へ、受託開発からサービス型へ、多重下請け構造から水平分業へ、3つの構造変化

■ 当社

スマートフォン端末の開発から、スマートフォンを使った新たなサービスの開発の需要が増加し、商談が活発化
また、全般的に需要が回復基調で全BFで商談が増加

2013年3月期重点テーマ

変化先取りに注力し、技術提案力で顧客基盤のさらなる強化を図る

期初方針	総括
<p>他社との差別化を図り、競争優位を確保して受注につなげる:QCD&I</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力を主体とした活発な営業活動を継続、新規の商談を開拓し受注につなげる。 ■獲得した商談は、改めてQCD&Iにより、お客様満足度を向上させ、リピート商談につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力を主体とした営業活動で、オープンプラットフォームを中心に商談が活発化した。 ■顧客満足度向上により、既存顧客の受注増が業績に結びついた。
<p>成長が期待できる市場に参入する:オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、移動体通信事業者向けサービスなどの市場を開拓する。 ■環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。 ■ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、既存のビジネスに、新プラットフォームやマルチメディア放送などの開発が加わり増加した。 ■環境エネルギーのビジネスは、太陽光発電マネージメントシステムの開発などで成果あり。 ■ロボットは、RTMSafetyの販売を開始し、適用案件を受注した。宇宙ロボットの研究開発、ロボットメーカー等からの受託案件が増加、徐々に成果を出しつつある。
<p>変化先取りに注力:研究開発と製品開発に積極投資</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、環境エネルギー中心に取り組む。ロボットの受託研究が終了しビジネス化に取り組むため、研究開発費は減少予定。 ■製品開発は、RTMSafety(機能安全対応RTミドルウェア)を5月初めに発売開始、airCube(地上デジタル放送用組込みソフトウェア)のAndroid版は機能強化中。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、環境エネルギーに関しては予定どおり実施した。また、新規テーマとして360°全方位テレビの開発に取り組んだ。 ■製品開発は、予定どおりRTMSafetyを発売。airCubeのAndroid版は機能強化を実施した。

2013年3月期総括

売上高は過去最高を更新、受注高・受注残高も過去最高に

■売上高、利益面ともに計画を上回り、前期比で増収増益

- 売上高は、オープンプラットフォーム関連商談を中心に受注が好調で、過去最高
(売上高:計画達成率105%、前年同期比124%)
- 営業利益および経常利益は、売上高が伸びたことより、計画を大幅に上回って増益、上場来最高
(営業利益:計画達成率130%、前期比213%、利益率17.0%)
(経常利益:計画達成率130%、前期比155%、利益率17.7%)

■受注高及び受注残高は計画を上回り、前期比でも増加

- 受注高は、オープンプラットフォーム関連を中心に商談が活発で計画を上回り、過去最高
(受注高:前期比119%)
- 受注残高は、10億を超えて過去最高
(受注残高:前期比120%)

■オープンプラットフォームの好調に加え、全てのBFで受注が増加

- オープンプラットフォームの通信事業者向けアプリケーションが好調
- 非接触型ICのエンベデッドソフトウェアが好調を維持
- 宇宙、防衛分野などの官公庁関連、入札案件のアプリケーションが増加
- ワンセグソリューションのairCube for Androidの販売が堅調

損益計算書

	2012年3月期 (百万円)	2013年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(1月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	3,084	3,818	123.8	3,650	104.6
売上原価	2,185	2,649	121.2	2,640	100.3
売上総利益	899	1,169	130.0	1,010	115.7
販売管理費	595	520	87.5	510	102.1
営業利益 (営業利益率)	304 (9.9%)	648 (17.0%)	213.1	500 (13.7%)	129.6
経常利益 (経常利益率)	435 (14.1%)	674 (17.7%)	155.0	520 (14.2%)	129.7
当期純利益	242	407	167.6	320	127.3

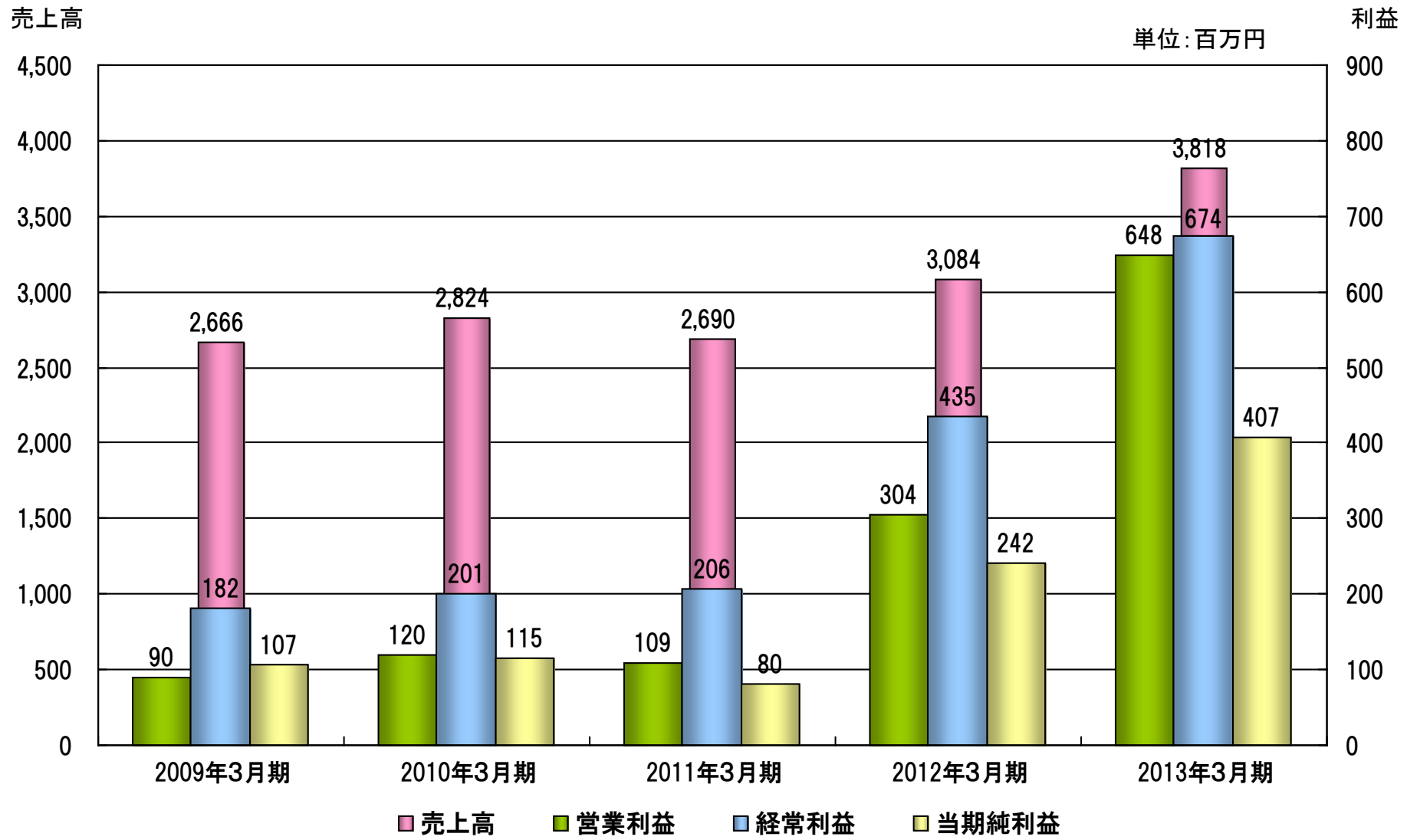
売上原価 外注費が大幅増(前期比69%増)、人的資源の配分が研究開発・製品開発から売上原価へ

販売管理費 研究開発費が43百万円(前期比68%減)に減少

営業外損益 研究開発の補助金収入は7百万円(前期比94%減)、環境エネルギーのみ

特別損失 大阪事業所移転費用など12百万円(前期は投資有価証券評価損3百万円)

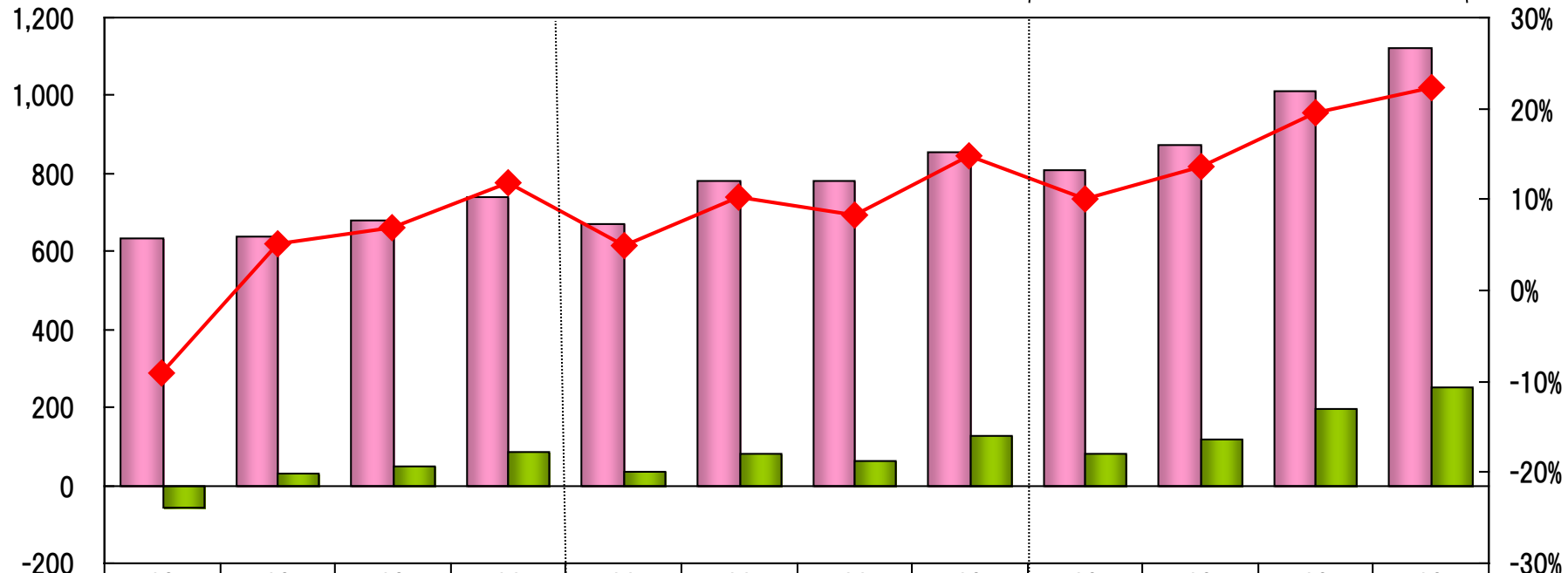
決算業績推移



四半期業績推移(PL)

8四半期連続で前年同期比増収増益、営業利益率も全四半期10%以上で推移

単位:百万円



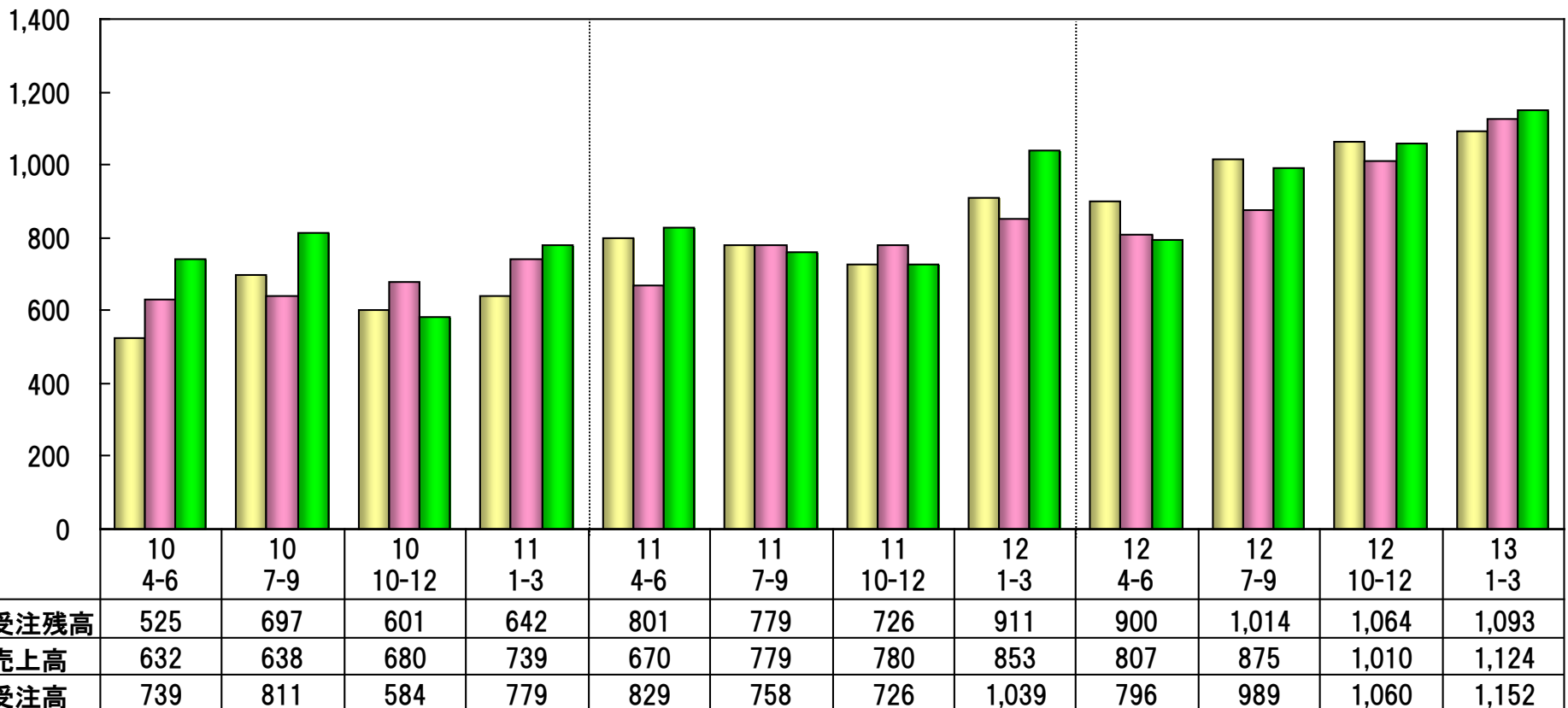
	10 4-6	10 7-9	10 10-12	11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	12 4-6	12 7-9	12 10-12	13 1-3
売上高	632	638	680	739	670	779	780	853	807	875	1,010	1,124
営業利益	-57	32	47	87	33	80	63	126	80	119	196	250
営業利益率	-9.1%	5.1%	7.0%	11.8%	5.0%	10.3%	8.2%	14.8%	10.0%	13.6%	19.5%	22.3%

売上高 営業利益 営業利益率

四半期業績推移（受注）

第2四半期の受注増で9月末の受注残が10億円を超え、
下期は、受注高・売上高・受注残高が10億円を超えて推移

単位: 百万円



■ 受注残高 ■ 売上高 ■ 受注高

BF別の状況

オープンプラットフォームが好調を維持、全ビジネスフィールドで増加

ビジネスフィールド	2012年3月期		2013年3月期(計画は1月)			前年 同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	356	11.5	455	11.9	122.5	128.0
ワイヤレス	1,385	44.9	1,672	43.8	104.6	120.7
インターネット	526	17.2	569	14.9	88.7	108.3
社会基盤システム	306	9.9	445	11.7	115.8	145.2
宇宙先端システム	293	9.5	387	10.2	112.3	131.8
ソリューション	215	7.0	287	7.5	93.4	133.1
合計	3,084	100.0	3,818	100.0	104.6	123.8

- モバイルネットワーク オープンプラットフォーム関連の技術アプリケーションが堅調 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- ワイヤレス Androidスマートフォン堅調、サービス関連、新プラットフォーム増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- インターネット 非接触型IC堅調、民間企業向け技術アプリケーションが増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- 社会基盤システム 防衛など官公庁系の技術アプリケーションが増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- 宇宙先端システム 宇宙関連の地上系の技術アプリケーションが増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- ソリューション airCube for Androidのロイヤリティ収入が堅調 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加

技術サービス別の状況

エンベデッド好調に加え、全ての技術サービスが増加

技術サービス	2012年3月期		2013年3月期		前年 同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	1,542	50.0	1,849	48.4	119.9
コアテクノロジーサービス	210	6.8	339	8.9	161.4
技術アプリケーション	1,115	36.2	1,341	35.2	120.3
ソリューション	215	7.0	287	7.5	133.1
合計	3,084	100.0	3,818	100.0	123.8

- オープンプラットフォーム関連の商談が活発で、エンベデッドソフトウェア、コアテクノロジーサービス、ソリューションが増加
- 社会基盤システム、宇宙先端システムなどの技術アプリケーションも増加
- 全体構成は、前期と同様で大きな変化はなし

期末の受注状況

10億円を上回る受注残高で今期がスタート

ビジネスフィールド	2012年3月期		2013年3月期(計画は1月)				受注残高 前期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	339	127	438	107.6	110	68.7	86.5
ワイヤレス	1,596	352	1,859	120.8	540	179.2	153.2
インターネット	589	182	453	79.2	65	55.0	36.1
社会基盤システム	358	121	561	134.8	237	156.6	195.2
宇宙先端システム	276	61	422	106.5	96	88.3	157.0
ソリューション	193	66	264	68.5	42	31.1	65.0
合計	3,354	911	3,999	107.5	1,093	111.5	119.9

- 受注高は、計画を大幅に上回り、645百万円の増加(対前期比 119%)
- 受注残高は、計画を大幅に上回り、181百万円の増加(対前期比120%)
- ワイヤレスBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFの受注残高が前期より大幅増

期末貸借対照表

単位:百万円

	2012年3月末日	2013年3月末日	増減
流動資産	3, 170	3, 616	445
固定資産	1, 202	1, 213	11
流動負債	669	789	120
固定負債	55	64	9
純資産	3, 648	3, 975	326
総資産	4, 373	4, 829	456
自己資本比率	83. 4%	82. 3%	▲1. 1%
流動比率	473. 7%	457. 8%	▲15. 9%
固定比率	33. 0%	30. 5%	▲2. 4%

流動資産 主に売掛金、現金及び預金の増加

固定資産 主に前払年金費用の増加

流動負債 主に買掛金、賞与引当金の増加

固定負債 特別な変動なし

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2012年3月期	2013年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	604	265	▲339
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲158	▲85	73
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲102	▲76	25
現金及び同等物の増減額	343	105	▲237
現金及び同等物期末残高	1,996	2,102	105
参考)長期預金+満期保有目的債券	600	600	—
参考)現預金+長期預金+債券	2,596	2,702	105

営業キャッシュ・フロー 主に売上債権の増加および法人税等支払の増加による収入減

投資キャッシュ・フロー 主に無形固定資産の取得が減少したことによる支出減

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の減少による支出減

今期業績見通し (2014年3月期)

2014年3月期業績見通し

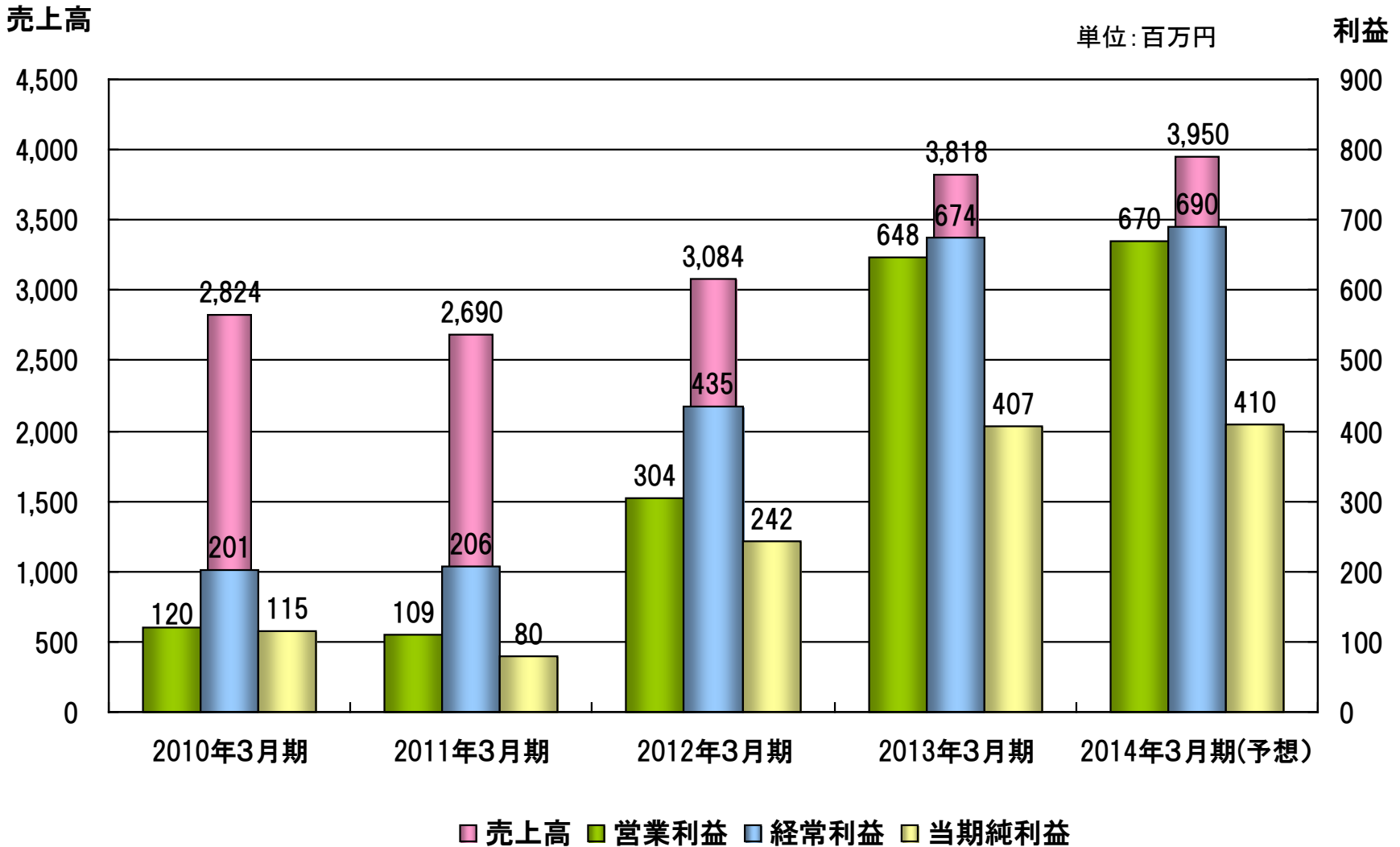
3期連続の増収増益を目指す

単位:百万円

	2013年3月期 実績	2014年3月期 見通し	前期比 (%)
売上高	3,818	3,950	103.5
売上原価	2,649	2,750	103.8
売上総利益	1,169	1,200	102.7
販売管理費	520	530	101.8
営業利益 (営業利益率)	648 (17.0%)	670 (17.0%)	103.4
経常利益	674 (17.7%)	690 (17.5%)	102.3
当期純利益	407	410	100.7

- 売上高は、前期に引き続きオープンプラットフォーム関連が牽引する見通し。
しかし、携帯メーカーのスマートフォン本体の開発がピークを過ぎ、受注が落ち込むことが予想され、それを他のBFを含めてカバーできるかが業績達成のポイント。
- 利益面は、前期と同程度の利益率を見込む。
- 本社フロアを増床、これに伴い移転費用など約10百万円の特別損失が発生する予定であり、当期純利益はほぼ前期並み。

通期業績の推移



2014年3月期重点テーマ

開発体制を強化して顧客基盤のさらなる強化を図り、継続的な成長を目指す

期初方針

現場力で「質を下げずに量をこなす」に挑戦する:QCD&I

- 協力会社を組み入れた体制でも高い品質を維持し、「質が量を呼ぶ」ことにより受注を増やす。
- 基本方針である「QCD&I」でお客様満足度を高め、顧客基盤を強化してリピート商談につなげる。

成長が期待できる市場に参入する:オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット

- オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、MM放送に加え、Tizenなどの新しいプラットフォームの開発案件の受注を目指す。
- 環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。
- ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。

変化先取りに注力:研究開発と製品開発に積極投資

- 360° 全方位テレビなどビジネス化に向けて積極的に取り組む。
- 環境エネルギーの実証実験を継続する。
- ロボットに関しては、国の公募案件に参画し、モジュール化・部品化の研究を促進する。

2014年3月期BF別業績見通し

オープンプラットフォームに加え、社会基盤システムが増加の見通し

ビジネスフィールド	期初の方針	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談が継続することが期待できることから、ほぼ横ばい	→
ワイヤレス	Androidを搭載したスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアに加え、Tizenなどの新しいプラットフォームやマルチメディア放送、NFCを使った新たなサービス系の商談が期待できることから、増加	↗
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアを中心として、前期と同様な商談状況が見込めることから、ほぼ横ばい	→
社会基盤システム	防衛、放送、復興需要を含めた環境エネルギー分野、官公庁需要の増加が期待できることから、増加	↗
宇宙先端システム	衛星搭載エンベデッドソフトウェア、国の研究機関の受注も前期並みで、ほぼ横ばい	→
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品の販売が減少すると予想されることから、減少	↘

注力分野の状況

(オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

オープンプラットフォーム

新技術への対応を加速し、引き続きマーケット拡大

状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォン向けマーケットを開拓。約6割の社員がAndroid技術に対応可能
- ・ Androidスマートフォン向けソフトウェア開発を推進、特に日本国内仕様への対応(オープンプラットフォームにガラパゴスを)にフォーカスしマーケットを拡大
- ・ アプリからミドルまでトータルなAndroid向け統合ワンセグソリューションairCube for Androidを開発しソリューションビジネスを拡大

実績 (2013年3月期 売上高約23億円)

- ・ 大規模なAndroidスマートフォン、タブレット向けソフトウェア開発、Tizenなど新しいプラットフォーム向けの開発
日本国内仕様への対応(ワンセグ、電子マネー、MM放送)やマルチメディア機能、DLNA、NFC、カメラ機能などの開発
- ・ ワンセグソリューションの販売、Androidスマートフォンやタブレットメーカー(5社)と契約
- ・ 通信キャリアや携帯メーカーのスマートフォンを使用した独自サービスのクライアント・サーバの開発
- ・ Androidに関する知識と実績を活かし、通信キャリア向けコアテクノロジーサービス



今後の方針(新技術への対応を加速しマーケットを拡大)

- ・ 電子マネー・MM放送・NFCなど競争優位が確保できる技術が活用される商談の受注推進
- ・ 通信キャリアや携帯メーカーが提供する新たなサービス系の商談の受注拡大
- ・ Tizen、Windows Mobileなどの新プラットフォームに関連するマーケットの開拓
- ・ 360° 全方位テレビなど次の成長に向けた新しい技術・ソリューションの市場投入

防災・復興などを含め、他社と共同ビジネスを推進

状況

- ・ 2008年度に急速充電器遠隔監視制御システム(G-EV)を開発。環境エネルギー分野への取組み開始
- ・ 2009年度にKDDIと共同で「スマート充電システム」を開発、地方自治体などへ販売実績
- ・ 2010年度にNEDOの「蓄電複合システム化技術開発」共同研究委託先に選定され、デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS(Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画(経済産業省補助事業として継続中)

実績 (2013年3月期 研究補助金約7百万円、売上高約26百万円)

- ・ 港湾地域を対象とした地盤の液状化判定ならびに側方流動化予測を行うシステムの開発
→早稲田大学
- ・ 地方都市防災計画(シミュレーション)
- ・ 国内スマートシティ事業での環境案件の受託→豊田市HEMS案件、北九州市BEMS案件
- ・ 急速充電器遠隔監視制御システム「G-EV」保守運用→東京電力
- ・ 「蓄電複合システム化技術開発」の豊田市実証グループに参画
→ビル機器・設備等の運転管理によるエネルギー消費量の「見える化」エンジン開発、エネルギー需要予測エンジン、太陽光パネル発電予測エンジン等の予測エンジンの開発と電力制御(ピークカット)の検討、豊田市にて実際のサービス運営を実施し、ビジネスモデル、マーケットを検討予定
- ・ 豊田市スマートシティ実証実験の成果として、福島県の太陽光発電マネージメントシステムの開発に参画



今後の方針

- ・ 商用施設でのBEMSのノウハウを活かしてビジネス化を推進(デンソー、豊田通商、KDDI、トヨタ自動車とのアライアンス)
- ・ 環境エネルギー関連の受託開発
- ・ 防災・復興など範囲を広げてビジネスを推進

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始、2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開
- ・ 国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進
- ・ 機能安全対応RTミドルウェアRTMSafetyについてIEC61508の認証を取得、2012年5月販売開始

実績 (2013年3月期 売上高約82百万円)

- ・ 機能安全対応RTミドルウェア RTMSafety 適用案件の開発
- ・ 開発案件
 - ・ 宇宙ロボットミドルウェアの研究開発(JAXA)
 - ・ 危険作業用ロボット遠隔操作ソフトウェアの開発
 - ・ ロボットメーカ、住宅メーカ、大学からの受託開発
- ・ 論文発表・展示会出展他
 - ・ RTミドルウェア関連の研究成果の展示、RTMSafetyについての講演
 - ・ ロボコンマガジンにRTM on Android記事執筆、日本ロボット学会等にて論文発表
 - ・ 計測自動制御学会システムインテグレーション部門2012年度部門賞技術業績賞受賞

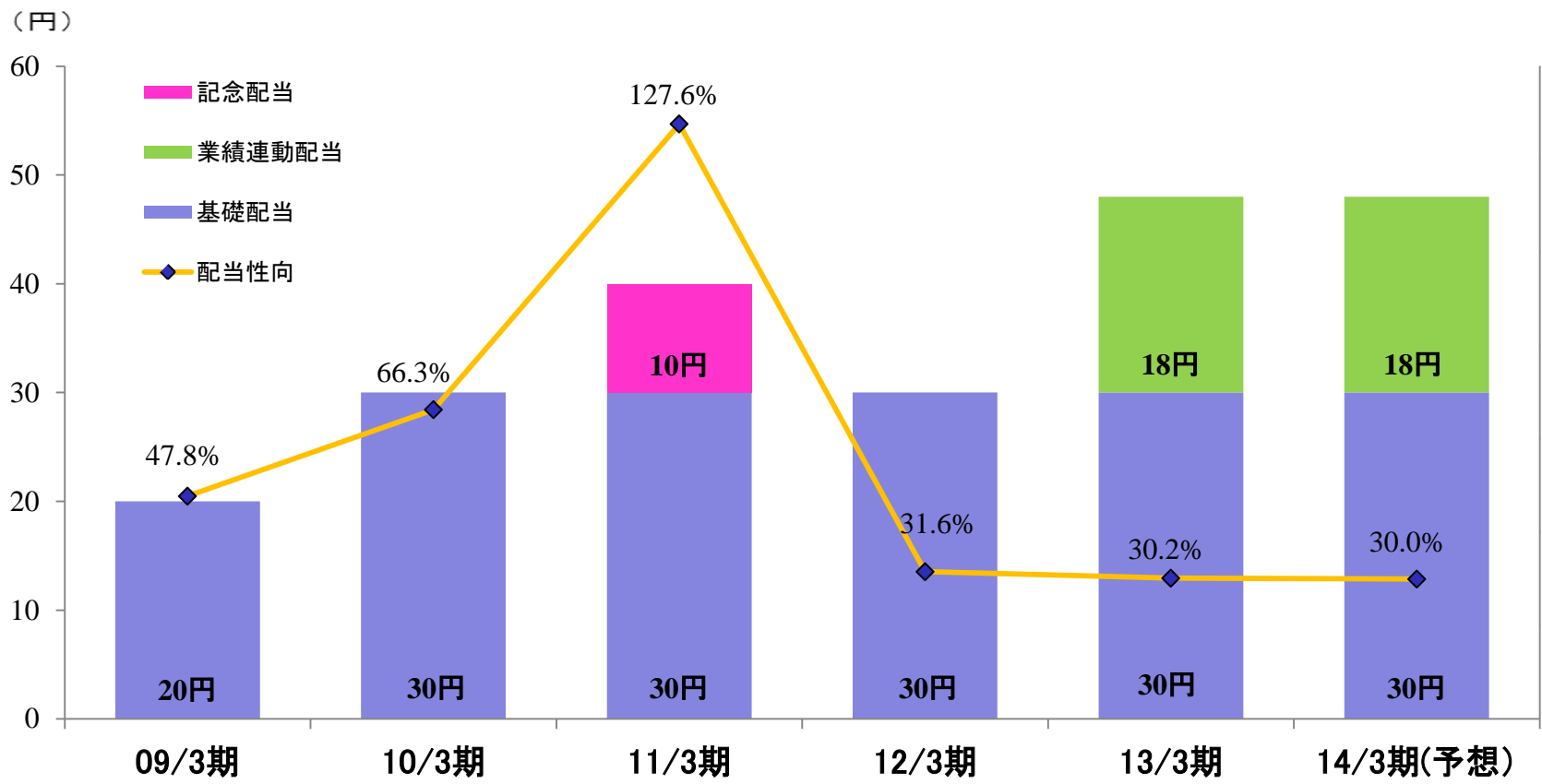
今後の方針

- ・ 機能安全対応RTミドルウェア RTMSafetyを販売し、ビジネス化を推進
- ・ サービスロボットや実用ロボットの受託開発を推進
- ・ ロボット関連の公募案件に参画し、モジュール化・部品化の研究を促進



配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して每期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2013年3月期は、前期より18円増配し、48円(配当性向30.2%)とする。
- 2014年3月期は、配当性向30%で算出した金額48円の予想とする。



この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによつて生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

用語集

エンベデットソフトウェア

特定の機能を実現する為に家電製品や機械、装置に組み込まれるソフトウェアです。

アプリケーション

特定の目的のために作成されたソフトウェアです。利用者がコンピュータ上で実行したい作業を実施する機能を直接に有するソフトウェアです。

ソリューション

業務上の問題点の解決や要求の実現を行うための情報システムで、顧客の要望に応じてシステムの設計を行い、必要となるあらゆる要素を組み合わせて提供するもののことをいいます。「カスタマイズされた製品」などの意味で用いられることもあります。

オープンプラットフォーム

オープンプラットフォームとは、ハードウェアやソフトウェアなどにおいて、製品やサービスの基本を構成する技術仕様などを公開したプラットフォームを指します。従来は製品やサービスを開発する際、技術仕様などを公開せず、他社製品が参入できないようにするなど、独自性を重視してきました。これに対し、オープンプラットフォームでは技術仕様やプログラムのソースコードなどを公開することにより、開発者やサードパーティなどの参入を促し、製品やサービスをより広く普及させようと考えています。国内の携帯電話市場では携帯電話事業者や端末メーカーの仕様に基づいた端末が広く普及していましたが、Android採用端末をはじめ、オープンプラットフォームを採用する製品が登場し注目を集めています。

Android(アンドロイド)

スマートフォンやタブレットPCなどの携帯情報端末を主なターゲットとして開発されたプラットフォームで、Linuxベースのモバイル用オープンソース・オペレーティングシステム、ミドルウェア、主要なアプリケーションからなるソフトウェアスタック(集合)パッケージで構成されています。2013年現在、スマートフォン用のOSとしては、日本およびアメリカではトップシェアを誇っています。

用語集

RTミドルウェア

RT(Robot Technology)ミドルウェアは、ロボットを構成する要素(アクチュエータやセンサなど)やロボットを制御するソフトウェアを、コンポーネントとして部品化するための技術です。RTミドルウェアを利用することで、部品化されたソフトウェアコンポーネントを組み合わせるだけで、多様な機能を持つロボットシステムを容易に構築することができます。RTミドルウェア技術が提唱するソフトウェアコンポーネントのモデルは、2008年4月に国際標準化団体OMG(Object Management Group)にて、「ロボット用ソフトウェアのモジュール化に関する標準仕様」として採択されました。

エネルギー管理システム

エネルギー管理システムとは、エネルギー設備全体を監視・制御することにより、エネルギー使用の効率化とエネルギー消費の削減を図ることを目的とした情報システムです。

スマートチャージシステム

スマートチャージシステムとは、限られた電力(施設毎の電力事業者との契約アンペア数)を有効活用し、電気自動車に効率的に充電する充電施設を制御する情報システムです。

ユビキタス

ラテン語で「同時に、いたるところで存在する」という意味です。あらゆる情報機器がネットワークで結ばれ、いつでもどこでも情報をやりとりできる社会を「ユビキタス・ネットワーク社会」ないし「ユビキタス社会」と呼び、21世紀の情報社会の方向性を示す言葉として用いられています。

非接触型IC

電車やバスのプリペイドカードや電子マネーに使用されているICチップです。外部の端末が発信する弱い電波を利用してデータを送受信するため、読み取り端末に接触させなくても処理が可能となっています。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“Realtime@net”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770